

所属	農学生命科学部 藤崎農場	氏名	林田 大志
課題名	弘前大学育成リンゴ新品種のブランド化と新たな戦略		

1. 概要

弘前大学は1981年よりリンゴ新品種の育成プロジェクトを行い、大果系、高付加価値化を主目的とした赤肉系、果皮の着色管理のいらぬ省力化できる黄色系の選抜を進めてきた。‘紅の夢’は2010年に品種登録され、現在でも人気が高く様々な新たな商品を生み出し、青森県および弘前大学の活性化に大いに貢献した品種である。2016年には赤肉系品種のリレー出荷を目的に早生の‘HFF60’、晩生の‘HFF33’が品種登録された。

‘HFF60’の収穫期は‘つがる’および早生‘ふじ’と同時期の9月下旬から10月上旬である。最大の特徴は、果皮が黄色で、果肉が赤いことである。果実を割って、果肉着色を確認している‘紅の夢’とは異なり、‘HFF60’は果皮を通して果肉の赤色が透けて見えることから、生産現場において非常に有意義である。また、‘紅の夢’と比較して、酸味が低く生食し易い品種であることから、珍しい性質を兼ね備えた贈答用高付加価値リンゴとして今後の普及に期待が高まる。

‘HFF33’は晩生で11月上～中旬に収穫される。果皮が‘千秋’のように縞模様になく赤く着色し、果肉は毎年確実に赤く着色する。酸味が低く生食できる、また、貯蔵性に非常に優れ、4～5月まで貯蔵可能だというデータも得ている。中国の春節や弘前のさくら祭りの贈答品として大いに期待できる品種である。現在、「美紅」として商標登録申請中である。

黄色系の‘HFF63’は果重が350g前後で果形は王林に似た縦長である。糖度15%以上で爽やかな甘みと香り豊かな品種である。蜜も入り貯蔵性も高く蜜褐変しない。樹体が‘ふじ’と同様に栽培し易いことから、王林に代わる品種として大いに期待できる品種である。2017年に「きみと」という商標登録名を得た。

本研究では、これら3品種のPRおよびブランド化を含めた活動を行うべく、まず、新しいパンフレットあるいはHP作成。これまでのデータを基に‘HFF33’では、商標登録名の利用について検討（ブランド化、高品質維持）を行う。



(1) きみとの果実



(2) HFF33の果実

2. 画像の説明

- (1) きみとの果実
- (2) HFF33の果実